

の漢名よりいへる詞なり、

〔夫木和歌抄二十九〕文集百集插柳作高林院種桃成老樹

慈鎮和尚

ひきうゑし木々の梢にとしたけてやどもあるじもおひにける哉

〔伊呂波字類抄須植物附植物具楳心彥叟、楚同〕

〔撮壊集中木〕楳

氣條同

〔倭訓栞前編十二〕すはえ 氣條をいふ唐詩に見ゆ、直生の義成べし、倭名抄に楚をよめり、万葉集に、楚取五十戸良がこそといへるも、すはえとるさとらがこそとよむべし貧窮問答の歌なれば、筆楚をもて里長の租稅をはたるをいふ也。○中略 日本紀に笞杖をほそすはえ、ふとすはえとよめり、

〔玉勝間十〕はじめを濁る詞

言のはじめを濁るもまれくにはあるは、蒲石榴、ガマザクラズワエブチ、紅粉などのごとし、これらふるき物にも見たる詞也、後世にこそ濁りていへ、古はみな清ていへりし也。○中略 楚は末枝也、末をすわといふは、聲をこわづくりなどいふと同じ。

蘖

楳

〔倭名類聚抄二十〕蘖

纂要云、斬而復生曰蘖、魚列反、和名

〔箋注倭名類聚抄二十〕毛詩汝墳篇傳、斬而復生曰棘、方言陳鄭之間曰棘、秦晉之間曰棘、廣雅按尚書般庚由櫟釋文、本又作棘、則纂要本於毛傳也、說文櫟伐木餘也、又載櫟字云、櫟或从木櫟聲、下總本櫟作蘖、那波本同、按廣韻云、櫟書作蘖、伊勢廣本作蘖、按薛字或作薩故蘖亦作蘖也。○中略 字鏡云、稭穀亦更生、比古波江、又云、荑死木更生、比古波由、比古波衣、孫生也、

〔撮壊集中木〕蘖

〔倭訓栞前編二十五〕ひこばえ 倭名鈔に蘖をよみ、書に由蘖と見ゆ、孫生の義なるべし、新撰字鏡